

# 第2回学力担当者会議(共催:南丹教育局)

2022.7 亀岡市教育委員会

講演 「全国学力・学習状況調査から見える亀岡市の特徴と課題」

講師 広島経済大学教養教育部 准教授 前馬優策 氏



「学校の外で学習時間に差を生み出す構造があったとしても、それにかかわらず、授業で主体的態度を育成したり、他者とのやり取りの中で学んだりすることができれば、どんな児童生徒の学力も育成できる可能性がある。」

## 亀岡市の課題として

- ①家庭学習の習慣化、取り組みの充実を図る。
- ②ゲームをはじめとした生活習慣全体の見直しを図る。
- ③授業で、思考する機会を増やし、考えを深めたり、広げたりできるようにする。そのため、話し合い活動など有効に活用する必要がある。
- ④授業で、自分から取り組みたくなるような課題を設定する。
- ⑤授業以外でも児童生徒が主体性を発揮する場面を設ける。そのためには、「主体的に学ぶ」とはどのようなことを再認識する必要がある。
- ⑥上記ベースにある「学校の楽しさ」を確保する。
- ⑦今後、確実に求められる「ICT の活用」を上記のツールとして考える。

「主体的に学ぶ」について、中学校ブロックで協議し、交流しました。各校、講義で示された課題を共有し、思考すること、自分から取り組みたくなる課題設定等、職員間の論議を深めていきましょう。

## <参加者の感想>

ゲーム時間や学習時間と偏差値(学力)との相関があるという事実は、学校現場にいて体感している通りであった。亀岡の課題として挙げていただいた中で、特に家庭学習の充実については、義務教育学校ならではの特色を生かして努めていきたい。

学力テストの分析は、毎年行なっていましたが質問用紙の結果とリンクさせて分析する所までは行なっていませんでした。特徴的な結果については、共有しましたが学力と整合させる大切さを感じました。テスト結果の点数だけではなく、質問紙の結果も大事に分析していきたいと思いました。今年度の学力の研修は終わりましたが、是非今日の研修を伝えておきたい。

小6と中3の比較から小学校の課題、中学校の課題が見えてきて、この課題において、自校でも研修の材料に使わせたいと思いました。主体的に学ぶために、授業での考える機会を増やし、考えを深めて、広げていけるようにしていきたいと思いました。

本校の児童はゲームの時間が長く、特に私のクラスの児童のゲームの時間は非常に長い。ゲームの時間が学力に大きな影響がある事を知り、改めて驚きました。家庭とも協力をしながら、適切なゲームとの付き合い方を考えさせていきたいと思いました。また、本校はベテランの教員も多いので、思考する機会を増やすための授業改善について話し合うなど、職員間のベクトルを揃えつつ、お互いの技術を磨いていきたいと思います。

## 京都府南丹教育局

心が動く学び

～児童生徒が「教わる」授業から「学びとる」授業への転換～

- 学ぶことの意義」を見いだす学校教育へ
- 「認知能力」と「非認知能力」を一体的にはぐくむ。
- 「質の高い授業づくり」～5つの提言～  
「京都丹波の教育推進プラン」の再確認を

令和5年度予定の京都府次世代型学力・学習状況調査について

- これまでの京都府学力診断テスト(約30年間)の振り返り
- 学力の伸びを測る仕組みづくりへ(小4～中3の全学年)
- 「認知能力」と「非認知能力」を一体的にはぐくむために
- 問題は非公開。記述問題は出しにくさがある。
- 児童生徒の端末での入力等への慣れが必要。
- 調査結果データの見方・捉え方の研修が必要である。

※具体的な結果例をもとにした分析の体験。

今後の予定 10/24 ICT活用、11/25 実践交流、2月まとめ